ぼくのデブインコちゃん

佐々木マキ

J. レノン "My Fat Budgie" より

昭和21年、神戸市に生まれる。デビュー作「よくあるはなし」('66・11月号)。主著「ピクルス街異聞」「やっぱりおおかみ」「佐々木マキのナンセンサス世界」

ぼくの
ちびインコちゃん
ぼくと　犬の
なかよし

うわ

うひひ

自分の描いたものが、初めて印刷されガロに載った時の感動と興奮は忘れられません。ありがとう。

いー

べー

どこへでも
連れて
歩きたいと
ぼくは　いつも
思っている

彼の名前は　ジェフリーで
ぼくのおじいちゃんと
同じ名前

おお…
ジェフリー……
……

コツン

?

低脳だったじいちゃんに
ちなんで
ぼくがつけた名前です

WE N

BAT MA

MAN

インコを
きらう人も
おります
きいろで　かわいい
やつなのにね

彼らは
インコを
朝食に
たべたり

ネコに
与えたり
するの
です

……
おぉ…

うみが
みたいね・・

ぴ

PEA-NUTS

おお・・・
ジェフリー・・・
・・・

ぼくの
おじさんは
インコを
食べたの
です

RONNY

そいつは
太って
すばらしい
やつだった
のに

ぼくは
泣いて
人でなしと
叫んだけど

おじさんは
知らんかお
でした

カーン
カーン
カーン

このおじさん
アーサーという
名前でしたが　べつに
これといった意味はありません

その彼が
食堂へ
はいっていって

何でも
かんでも
食べて
しまった
のです

ガッ ガッ

プーホー
プーホー

ペーホー
ペーホー

医者たちは
どうしたもんだろうかと
彼のおなかを
のぞきこんでみましたが

む

あまりにも
むさぼりすぎて
いたので
けだものみたいに
死んでしまった
のです

けだもの
みたいに…

ちょっと
まってろ

き

ぼくが部屋の中を歩くと
ジェフリーは　ちゅくちゅく
さえずります

ぼくは
トーストに
いりタマゴを
つくって

スプーンで
彼に 食べさせて
あげます

グシ

おとなしく
してろよ

ほかの
インコ同様
彼も唄いますが
それは調子の
いい時だけで

とくに
日曜日などに
ぼくが　彼を

カゴの中へ
押し込んだ時
なんかです

Budgie Blues

すぐ
もどる
からっ

ヤル！

時々 部屋の中を 飛びまわっては

ギューン

ぼくの ベッドの上へ とまります

そして よっぽど 気げんの いい時には

きょうは きぶんが わるいんだ だから やさしく しておくれ

ぼくの 頭の上で それを やります

彼は今
たべすぎる
どころか

節食
している
最中なのです

FLOWER

もし これ以上
彼が 太ったら

支え棒が
要ると
みんなが
言うのです

ただいま
ジェフリー

きっと妙だよ
おかしいね――
つっかい棒を
したインコ？
想像しただけで
人はみな

変に
なるほど
笑い
ころげます！

そう
それがジェフリー
ぼくのインコちゃん

太って
しかも
きいろい
やつ

とうちゃんより
おまえの方が
好き

そして　ぼくは
たったの32才です

END